

**キーワード** 地方創生／官民連携／食／観光／水辺の保全・再生

**フィールド** 四国 (高知県) ・ **海**

**実施体制** NPO法人黒潮実感センター／高知大学／漁業者／ダイバー／林業者／地元小学生



## アクションの目的

エコツアーを通じた島の自然の実感、関係者の連携による自然環境の保全・再生

## アクションの背景

現センター長が、柏島の暮らしや環境を残していくことを目的に、1998年、「島が丸ごと博物館」をコンセプトとした黒潮実感センターの構想を提案した。廃校が決まっていた地元中学校の校舎の一室を借りて常駐し、校長の依頼で、生徒に環境教育を実施するようになった。徐々に島民の応援が増えて任意団体として発足し、2002年にNPO法人として認可を受けた。

## アクションの内容

**【自然を実感する取り組み】**  
エコツアーなどを通じて、子どもから大人まで幅広い年齢層の訪れる人々に島の自然の素晴らしさを実感してもらっている。地元の保育園児や小学生を対象に「海の寺子屋」事業を行い、海洋教育の推進に力を入れている。高知大学等の研究機関と連携し調査研究活動を行い、大学での講座を開講したり、里海セミナーなどの開催を通じて、地域資源の価値付け、課題解決に役立てている。

**【自然を活かしたくらしづくりのお手伝い】**  
地元の山の間伐材を用いたアオリイカの人工産卵床設置や、藻場再生事業を通じて「海の中の森づくり」をダイバーや漁業者、地元小学校、林業者、行政との連携で実施している。これによりこれまで折り合いが悪かったダイバーと漁業者との関係改善につながり、多様な主体の協働による持続可能な里海づくりに繋がっている。アオリイカの資源増および藻場の復元につながっている。

5年前からはこの活動に加え「アオリイカのオーナー制度」を設け、全国の市民の協力を仰ぎながら産卵床の設置数を増やし、アオリイカ資源の増加に寄与している。この活動により産卵床設置に伴うダイバーの件数確保、地元漁民からのアオリイカの購入を通じた、オーナーへの還元をおこなっている。

**【自然とくらしを守る取り組み】**  
サンゴの健全度を把握するリーフチェック等のモニタリングを地元ダイビングガイドらと共に継続的に行い、造礁サンゴの被度やそこに住む魚類相、無脊椎動物相の調査を行い、客観的データをもとに環境変化を捉え、調査結果を公表している。またサンゴの食害生物であるオニヒトデやヒメシロレイシガイダマンなどの駆除活動も行っている。

近い将来想定される南海トラフ巨大地震に備え、被害を最小限に抑えるため島民および外部からの観光客を対象にした災害リスクマネジメントに取り組んでいる。

## アクションのポイント

◎柏島を舞台に、海の生態系の状況や、観光資源としての経済的価値、大地震が起きた際の避難など、ほかにも様々な分野での研究が実施されているが、その成果については発表等を通じ、すべて地域に還元することとしている。このことが、漁業者とダイバーとの関係改善など地域における課題の解決や、観光客の受け入れ体制をつくることにもつながっている。

## アクションの効果

○地元の新鮮な魚介類や郷土料理を販売していたことにより、島の人が地域の文化に自信を持つようになり、3つの団体が郷土料理などを扱うお店を起業することにつながっている。

○2013年に開始したアオリイカのオーナー制度（産卵床の設置等にかかる資金を募り、出資者に捕獲したアオリイカを届ける）では、企業を含めて年間に約80口の応募があり、地域の取組や課題に対して全国から関心を得られるようになってきている。